

近年、毎年のように全国各地で自然災害が頻発

平成27
〜
29年

平成27年9月関東・東北豪雨



①鬼怒川の堤防決壊による浸水被害
(茨城県常総市)

平成28年熊本地震



②土砂災害の状況
(熊本県南阿蘇村)

平成28年8月台風10号



③小本川の氾濫による浸水被害
(岩手県岩泉町)

平成29年7月九州北部豪雨



④桂川における浸水被害
(福岡県朝倉市)

7月豪雨



⑤小田川における浸水被害
(岡山県倉敷市)

台風第21号



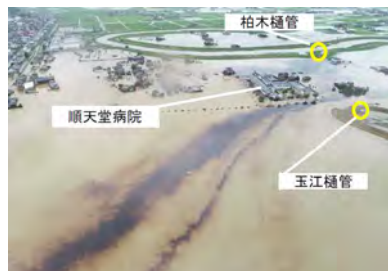
⑥神戸港六甲アイランドにおける浸水被害
(兵庫県神戸市)

北海道胆振東部地震



⑦土砂災害の状況
(北海道勇払郡厚真町)

8月前線に伴う大雨



⑧六角川周辺における浸水被害状況
(佐賀県大町町)

房総半島台風

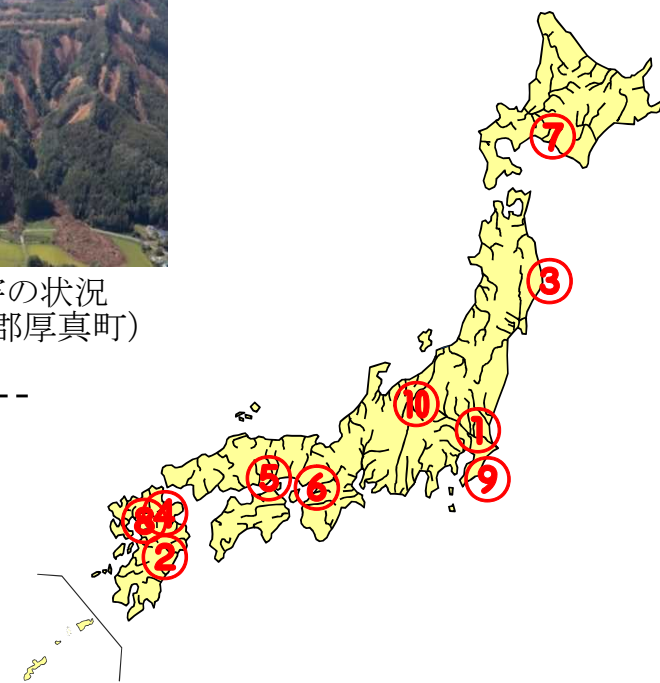


⑨電柱・倒木倒壊の状況
(千葉県鴨川市)

東日本台風



⑩千曲川における浸水被害状況
(長野県長野市)

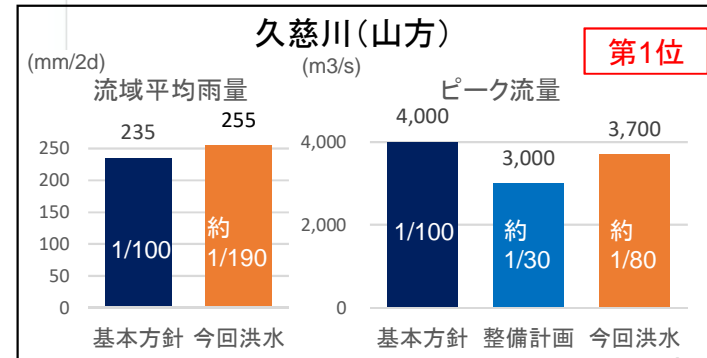
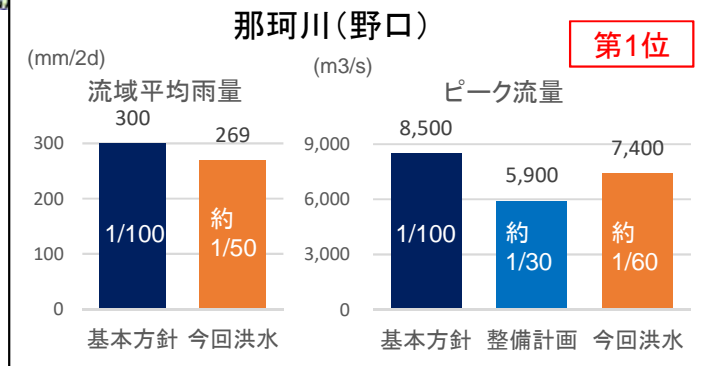
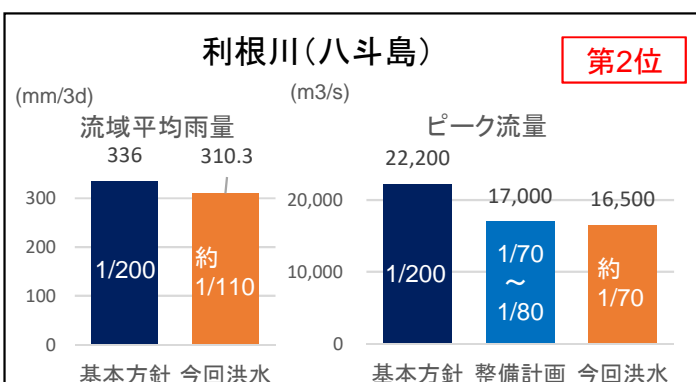
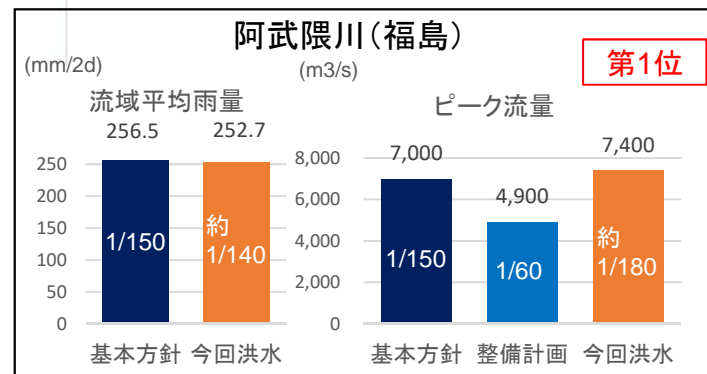
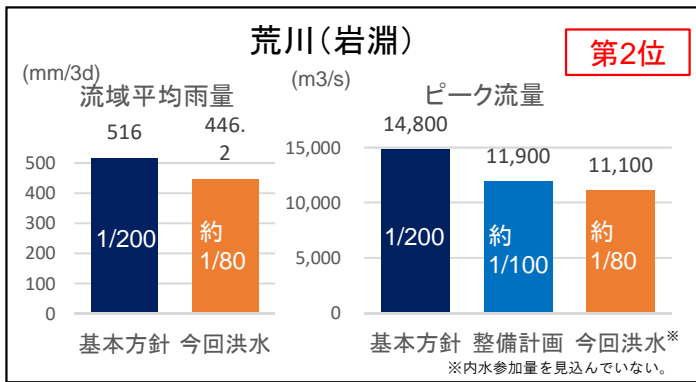
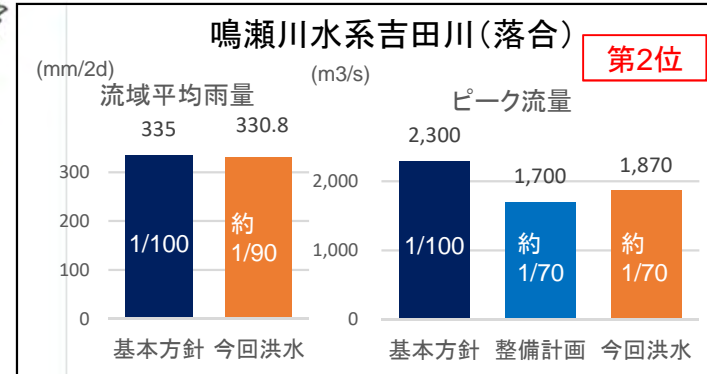
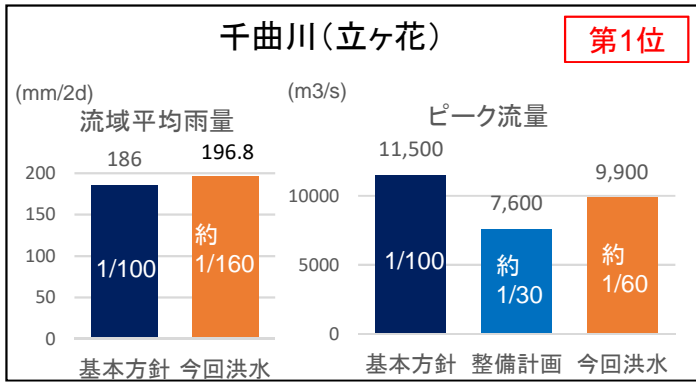
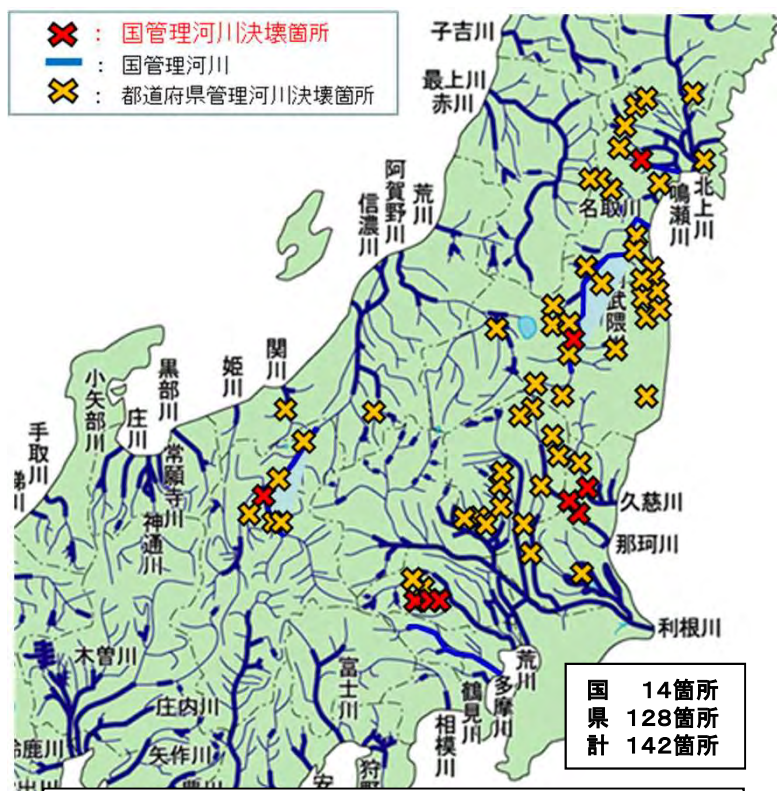


平成30年

令和元年

令和元年東日本台風による国管理河川の状況(降雨、流量)

- 主な河川における基準地点上流域平均雨量は、河川整備基本方針の対象雨量を超過又は迫る雨量となった。
- 流量は、観測史上最大又は2位を記録し、河川整備計画の目標を超過又は迫る流量となった。
- 阿武隈川では、基本方針の流量を超過した。



※数値は、速報値(R2.1時点)であり、今後変更となる場合がある。
 ※流量はダム・氾濫戻し。雨量は、対象降雨の継続時間の基準地点上流域の平均雨量。

国管理河川の整備水準

- 荒川では、戦後最大洪水(カスリーン台風)を河川整備計画(20~30年間の中期的な河川整備の計画)の目標としているが、未だ達成できておらず、令和元年東日本台風では、上流の支川(越辺川、都幾川)で決壊し、下流の荒川本川でも避難判断水位を超過。
- 他の多くの国管理河川で戦後最大洪水などの実績洪水を目標としているが、未だ達成できていない。

【上流】支川で決壊
(越辺川、都幾川)



【下流】荒川本川(岩淵地点)

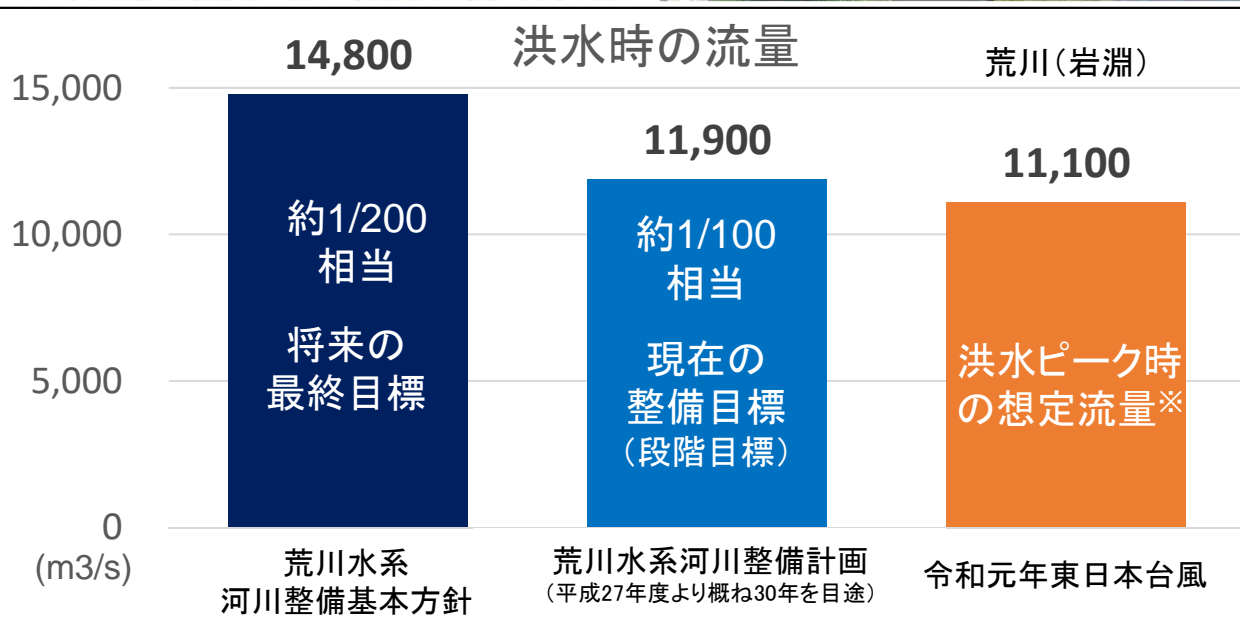
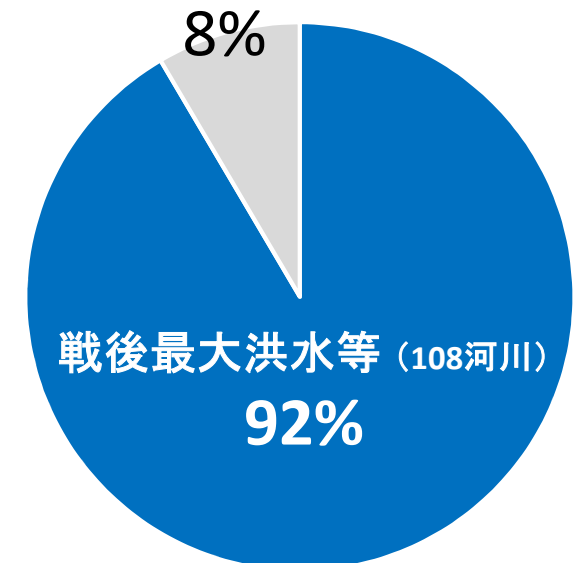


＜整備計画の目標＞

- ・現在の河川整備計画(20~30年間の中期的な河川整備)のほとんどは、戦後最大等の実績洪水を目標としている。

整備計画で目標としている洪水の規模

その他の洪水(10河川)



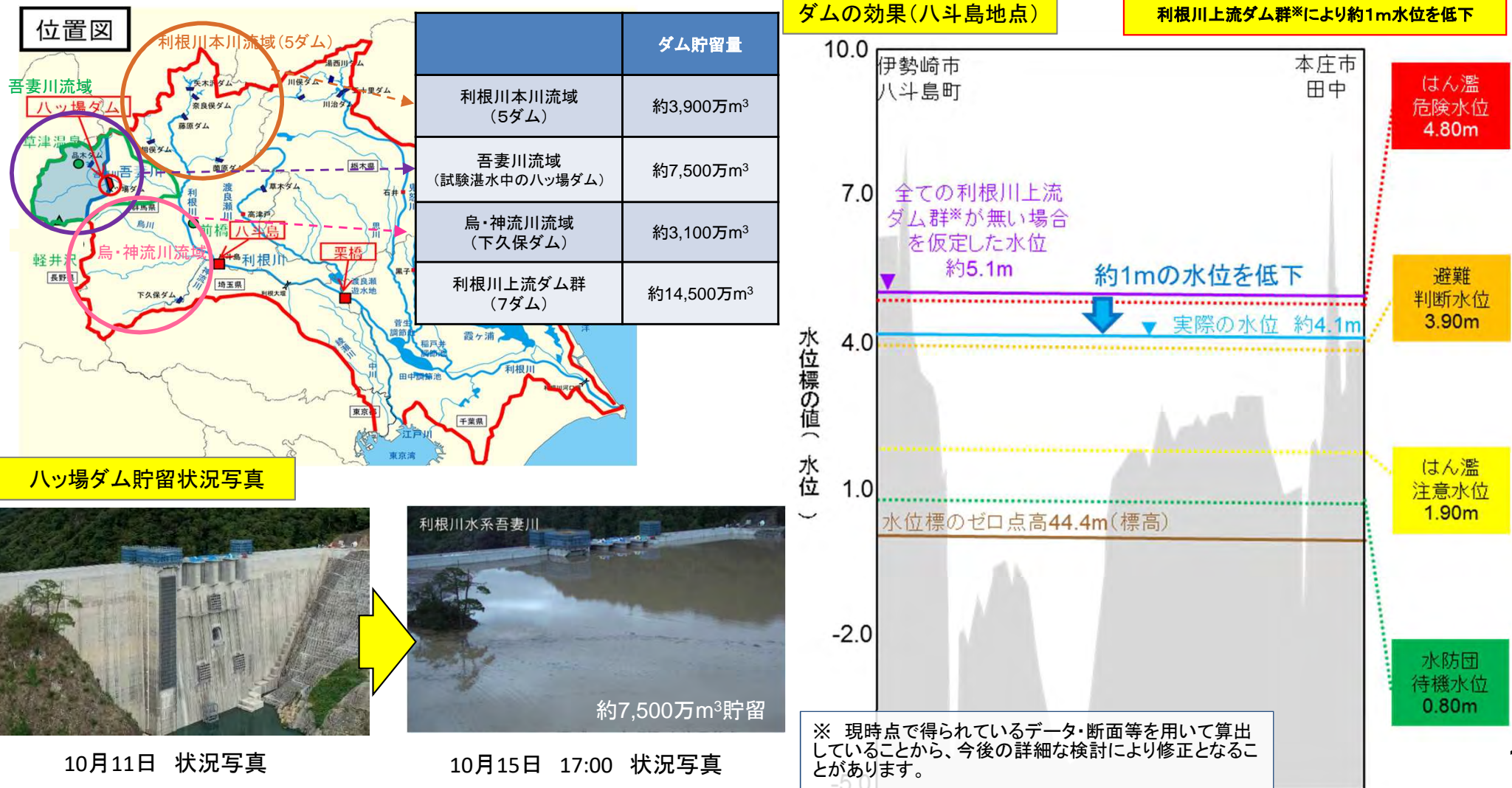
※グラフ中の流量は、全てダムや遊水地がない場合に荒川の岩淵地点を流れると想定される流量
令和元年東日本台風の流量には、支川から排水ポンプにより本川へ流入する量は考慮していない

令和元年東日本台風における利根川上流ダム群*の治水効果(速報)

- 利根川の治水基準点である群馬県伊勢崎市の八斗島地点の上流においては、利根川上流ダム群*において、約1億4,500万m³の洪水を貯留しました。
- これらのダムの貯留により、八斗島地点では、約1m(速報値)の水位が低下したものと推定されます。

*利根川上流ダム群: 矢木沢ダム、奈良俣ダム、藤原ダム、相俣ダム、菌原ダム、下久保ダム、試験湛水中のハツ場ダム

本資料の数値等は速報値のため、今後の調査等で変更が生じる可能性があります。



○平成30年7月豪雨、平成30年台風21号等を契機に平成30年12月にとりまとめられた「防災・減災、国土強靱化3か年緊急対策」を着実に実施するとともに、昨年の災害を踏まえ、中長期的な対策を実施する必要がある。

災害で明らかとなった課題（一例）

平成30年7月豪雨 小田川の決壊



氾濫した場合、湛水深が深くなり甚大な人命被害が生じる恐れのある区間が存在

H30～R2で実施している3か年緊急対策（一例）

以下の箇所での『堤防強化対策』を実施

- ・湛水深が深く、人命被害リスクが高い
 - ・浸水想定区域の家屋数が一定以上ある箇所又は重要施設がある箇所等
- 約300km（国管理区間の堤防強化（浸透対策）の例）

3か年緊急対策 終了後

国管理区間のみでもさらに約2,400kmの対策が必要

安全性の点検により堤防強化（浸透対策）が必要な延長（国管理河川）



3か年緊急対策

信濃川水系千曲川での3か年緊急対策と緊急治水対策プロジェクトの実施箇所

信濃川水系において、「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」（2018年度～2020年度）を進めていたものの、令和元年東日本台風による甚大な被害発生を踏まえ、国・県・市町村が連携し、ハード・ソフト一体的に「信濃川水系緊急治水対策プロジェクト」（2019年度～2027年度）を実施

（信濃川水系千曲川）



※本対策箇所は国管理区間における事業箇所の一部を記載しています。
 ※緊急治水対策プロジェクトについては、「河川における対策」のみ記載しています。

3か年緊急対策と緊急治水対策プロジェクトの実施箇所